



市立奈良病院での特定ケア看護師の活動

市立奈良病院 特定ケア看護師 宮口恵美

はじめに

私はJADECOM-NDC研修センターを修了し、特定ケア看護師として市立奈良病院に勤務しています。当院では私を含め特定ケア看護師が2名在籍しています。NDC研修生が1名、2名の区分別研修生がいます。

当院は病床数350床で、地域の二次救急医療を担う中核の急性期病院です。24時間365日、年間4,280件(平成30年度)救急車の受け入れを行っています。救急医療体制の整備に加えて地域の医療機関との連携なども踏まえて地域に密着した医療を提供しています。

日常業務

研修修了後は、当院の総合診療科、循環器内科、集中治療科で、身体診察や臨床推論を卒後研修1年間で行いました。

現在、私は、看護管理室に籍を置き、特定ケア看護師として、ICU/CCU(集中治療科)とER(救急科)で活動を行っています。ICU/CCUは医師が1～3名体制です。私は、毎朝、医師の治療方針についてのカンファレンスに参加しています。さらに週に2回は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、臨床工学技士で行われる多職種カンファレンスにも参加しています。

カンファレンス後、ベッドサイドで身体診察、エコーなどを行い、必要なケアを医師へ報告し、ディスカッションを行い、指示入力などを行っています。



多職種カンファレンス

今年の秋からERに出向しています。ERは初期研修医を含む医師1～3名体制です。私は、初療を行い、病歴や身体診察、検査結果から治療や追加検査についてなど医師とディスカッションしながら治療にあたっています。その際、他病院への転院が必要になれば地域連携室と情報共有し、転院調整を行っています。その日のうちに身体診察や臨床推論について指導医にフィードバックをもらっています。

臨床研修終了後の特定行為数は合計469件(約1年間)です。鎮静剤の投与量の調整や呼吸器の設定変更・呼吸器離脱、降圧剤・カテコラミンの調整などが約半数です。

末梢中心静脈カテーテル(PICC)に関してはさまざまな診療科の医師から依頼をいただき、月に2件ほど院内を横断的に関わらせてもらっています。清潔介助やPICCの管理についてスタッフに指導を行っています。また、陰圧閉鎖療法(VAC)は医師から依頼を受け、皮膚・排泄

ケア認定看護師(WOCNs)とともに介入することもあります。

特定行為に限らず、処置の際に担当看護師やリハビリスタッフと情報共有、処置の根拠や観察ポイントなどを助言しています。また、緊急入室や気管切開などの処置の間など、フロアで他の患者さんの状態をみたり、離床の状況の確認などを行っています。

当院では2018年よりRRS(院内救急システム)を立ち上げています。私は、メンバーでもあり、平日日勤帯(8:30~17:00)の初期対応が主な役割です。院内スタッフからRRS専用PHSに連絡が入ったら、現場に行き、診察を行い、医師へ状態報告をしながら検査・治療を行っています。その際、コールをしてくれたスタッフとともにベッドサイドにいき、原因検索や今後予測されること、観察ポイントについても助言していきます。その後も、再度現場に行き、介入後の評価をスタッフとともにに行います。

活動に対するスタッフの反応

ICU/CCUでは、病棟スタッフの教育体制や教育方針などについても一緒に話し合ったりしています。教育の一環として、シミュレーションなども企画しています。

ICU/CCUは、医師も常駐していますが、常にスタッフとともにフロアにいることや看護ケアも一緒に行ったりすることもあり、「小さな疑問でも質問しやすい」「そばにいてくれるから安心する」という言葉をもらいます。医師からも「ディスカッションもできるし、助かる」という言葉をもらっています。これらの言葉が私のモチベーション維持につながっています。

横断的活動では、処置などの際、「看護サイドの意見を聞きながらやってくれるから助かる」

などの声をいただいています。看護師同士なので言いやすいし、伝わりやすいということがあるのだと思います。

RRSでは、主治医が手術中や外来中ですぐに診察できないときなど、タイムリーに患者のもとに行けるため安心したと患者からもスタッフからも言ってもらえました。コールの相手が特定ケア看護師だと分かっているからかけやすいという意見ももらいました。

今後の課題について

RRSでは、「こんなことで電話していいのか」「主治医の方がよいのではないか」などと考えてしまい、電話をするという行為自体が難しいという意見もあります。スタッフからの連絡がより早くもらえるように病棟ラウンドを行うなどスタッフと関係性を築けるような取り組みを検討しています。また、得た知識を共有していけるよう活動していくとともにスタッフ教育を行っていき、質の向上に少しでも貢献していきたいと思います。そして、これからもチーム医療の一員として、フットワーク軽く動いて誰からも声をかけられやすい存在であり続けたいと思います。

当院は、特定行為研修施設という役割も担っています。臨床推論の大切さ、楽しさなど一緒に学んでいきたいと思います。後輩育成などを含め、特定ケア看護師の輪を広げていきたいと思っています。

今後、地域での活動も求められる中で、さまざまな疾患・症状が対象になってきます。それまでに私自身の課題として、臨床推論能力の向上、身体診察の技術など学習し、習得していきたいと思っています。